

子供を愛し なさい！

—児童虐待の深層心理—



東郷 潤

[筆者注]

●この「アイセ」と言っている存在は、人々の心の中や社会で、愛を命令している様々な存在(教師なり、親なり、深層心理の中で分裂した自我なり、良心／超自我なり、なんらかの権威者なり)のシンボルとして表現したものです。本物の神様とは無関係です。

●この絵本は、キリスト教(聖書)の「汝の隣人を愛せ」「汝の敵を愛せ」といった教えに関して描いたものではありません。

あるところに、子供嫌いのお母さんがいます。



でも、母親たるもの、子供を愛さなければいけません。母親が子供を愛さないなんて、決して許されることではありません。それは、とても悪いことなのです！

そこでお母さんは何が何でも子供を愛
そうと、一生懸命、努力することとしま
した。

ああ、どうすれば、
このクソガキを愛
せるんだろう？



ために、お母さんは、子供を自分好みの姿に、変えてみることにしました。

ちょっと、動かないで！



頭に花飾りをつけて、子供の顔を微笑ませたのです。



このまま笑っているのよ

すると、どうでしょう？ 子供が、どんどん可愛く、素敵に見えて来たのです！



これなら、愛すことは簡単です！ お母さんは、ほっとしました。

あれ、子供が動いてしまいました。・・・
そしたら、花も微笑みも無くなりました。
た。

もう、飽きた！



さら！



まあ大変！ これじゃ、もう愛せません。
愛せなければ、悪い母親になっちゃ
います。

動くな!



お母さんは、子供を怖い顔でにらみつけました。すると、子供は怯えて動かなくなりました。

さあ、もう一回。ほら、頭に花飾りをつけて。微笑みをつけて。



このまま笑っているのよ

そしたら、どんどん可愛く、素敵に見えてきました。さあ、これなら、愛すことは簡単です！ お母さんは、ほっとしました。



あれ、また子供が動いてしまいました。
花も微笑みも取れちゃったのです。

もう、
やだ！



全く！ この子を
愛するために、こ
れほど私は努力し
ているのに、この子
ったら！



大変！ これじゃ、もう愛せません。愛
せなければ、悪い母親になっちゃいま
す。

動くな！

動いたら、どうなるか
分かっているわね！



子供は怯えて、動かなくなりました。

ほら、頭に花飾りをつけて。子供の顔を微笑ませて。



このまま笑っているのよ

そしたら、どんどん可愛く、素敵に見えてきました。さあ、これなら、愛すことは簡単です！ お母さんは、ほっとしました。



可愛い、可愛い

あれ、また子供が動いてしまいました。
花も微笑みも取れちゃったのです。



大変！ これじゃ、もう愛せません。愛
せなければ、悪人になっちゃいます。



もう、動くなって
言ったでしょ！
今度、動いたら、
殺すわよ！

子供は怯えて、動かなくなりました。

…こうしてお母さんは、子供を脅し、殴り、傷つけ続けたのです。



ねえ、お母さん。

この誤解は世界中の人たちがしています。だからあなたも、子供を一生懸命、愛そうとしているだけだと、きっと信じているのでしょうか。

でもね、愛を無理に作り出すことなど人間には出来ません。たとえそれが実の母と子であったとしても。



どうか愛を命令 しないで！

愛は生まれず、
何か別のものが、生まれちゃうから



あとがき —絵本「子供を愛しなさい」

愛を巡っては、大きな誤解／錯覚が存在しています。そして、この誤解は善悪の錯覚とも有機的に結合し、人類の長い歴史の中で様々な悲劇をもたらして来たのです。

もしあなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にもご紹介していただければと願います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2009